Photographic Society of
Zone System

ゾーンシステム研究会会報
発行日：2021.4
発行者：中島秀雄
事務局：畑文夫
編集部：荒井崇

NO.71

CONTENTS

- 「大型カメラの時代に向けて」
  - ・・・ゾーンシステム研究会第 24 回写真展の中島代表挨拶文
- ゾーンシステム研究会第 24 回写真展作品(1)
- ゾーンシステム研究会第 24 回写真展スナップ
- ゾーンシステム研究会第 24 回写真展メディア掲載
- 日本経済新聞 中島代表インタビュー記事
- 大判カメラのピント合わせ　再考
- ILFORD Delta 100 テスト報告
- ILFORD Delta 100 を使って
- ゾーンシステム研究会定例会日誌
- インフォメーション

「大型カメラの時代に向けて」
･･･ゾーンシステム研究会第 24 回写真展の中島代表挨拶文

今年、2020 年は大変な年になった。ウイルス感染が広がり人々の不安な気持ちが高まるなか、4 月 7 日に緊急事態宣言が発令された。しかしその後の 19 日、日本経済新聞紙面にアメリカの写真家・アンセルアダムスの写真と人物紹介の記事が見開きページに載った。彼の荘厳で精緻な作品には長年に亘ってアダムスの写真哲学と技術を学んできた私たちにとり、冷静な気持ちを取り戻すためのかけがえのないメッセージとなった。

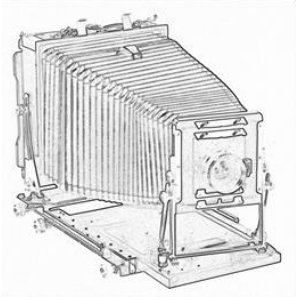
私たちは、山や湖の景観や四季の変化に強く引き付けられ、カメラを向ける。また美術館の絵画や都市空間のデザインからの感動が創造の発芽となるときもある。点在する曲線や曲面の偶然の重なり、素材の持つテクスチャーなどと大型カメラの微粒子で滑らかな表層が相まって、それは私たちの強い記憶と記録として定着される。

蛇腹のついた大型カメラの基本形は、写真黎明期の暗箱と変わらない。レンズを通して逆さまに映るピントグラスの映像は実景とは違う美しさとなって私たちを魅了する。旧タイプのレンズから最新のレンズまで、メーカーに関係なく使うことが出来るうえ、カメラの可動部は画像の歪みを打ち消し、被写体の美しさを画面上にそのまま保持してくれる優れた機能を有している。

また写真制作においては、カメラ・レンズの機械光学的工程と、フィルム・印画紙処理の化学的工程がともなうが、創作のどの工程においても手に触れ目で確認できることが大事なことだと思っている。1 枚ずつじっくりと撮影する大型カメラの利点を生かし、それぞれの工程で画像を的確に制御する方法が分かれば、被写体から最終的な写真プリントへのプロセスはより創造的なものとなる。

写真画像の情報化が益々強まる現在、大型カメラによる写真制作は、私たちが忘れかけていた写真本来の豊かさを取り戻すきっかけになる、と思っている。

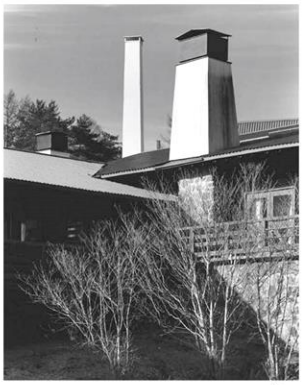
ゾーンシステム研究会代表　中島秀雄



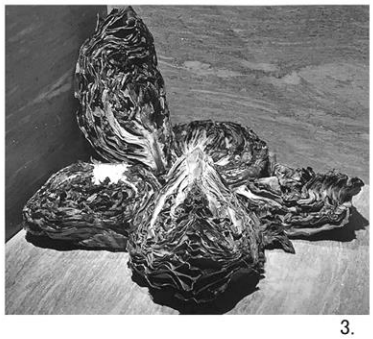
ゾーンシステム研究会第 24 回写真展［光への探求］作品（1）

ギャラリー イー・エム ［2020 年 11 月 10 日(火) ～ 11 月 21 日(土)］

1.



2.

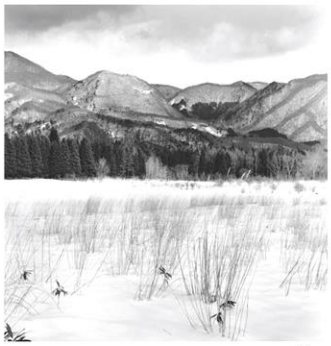


3.

4.

5.

6.



7.

1.「厳冬のあちばけ湖」中島秀雄
2.「清泉寮の煙突」中島秀雄
3.「紫甘藍」浜野次郎
4.「quasi－banana」臼井健司
5.「Cathédrale, Chartres」畑文夫
6.「春めく湖畔」大内元
7.「snowfield」大内元

8.

9.

10.

11.

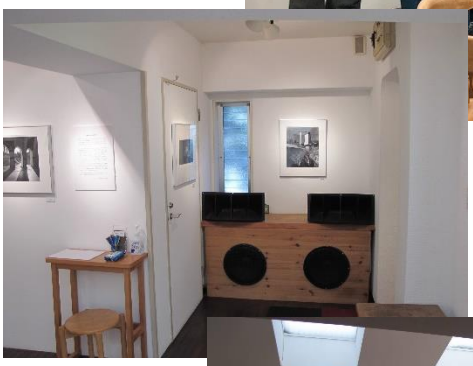
12.

13.

8.「石切山脈」金子正道
9.「オルレアン島」金子正道
10.「Monument」鶴見明秀
11.「音を観る」葛城忠彦
12.「Sea Cliff　(海食崖)」鈴木知之
13.「そして私は線の森へと誘われて
　　いったのです」金野邦明

（注）その他の作品は次号に掲載

ゾーンシステム研究会第 24 回写真展スナップ



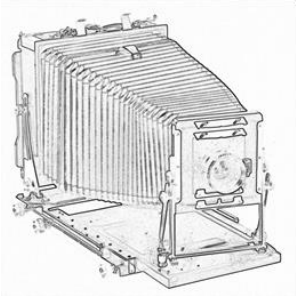
今年の写真展会場はギャラリー イー・エム。モノクロームに力を入れているプロ志向のギャラリーです。研究会としては、このギャラリーで開催するのは初めての試み。ギャラリー展示スペースの関係で作品数を絞りつつ、会期はいつもより長めに設定（2 週間）。いつもとは違ったマニアックなテイストの写真展となりました。また今回は、コロナ渦であることを考慮し、可能な限りの感染対策を行っての開催でしたが、多くの方々に来場していただくことができました。

ゾーンシステム研究会第 24 回写真展メディア掲載

[フォトステージ 2020 年 11 月号 裏表紙掲載]

◆ゾーンシステム研究会「光への探求―銀塩写真の魅力」　11月10～21日、広尾駅・「ギャラリーイー・エム西麻布」。20人の作家によるモノクロの自然風景。大判カメラを用い、現像、焼き付けにこだわった。二十数点。日、月曜休。03・3407・5075。

[読売新聞夕刊 2020 年 10 月 26 日 掲載]



日本経済新聞 中島代表インタビュー記事

文　化

モノクロ世界 妙なる陰影

◇米写真家アダムスの技法継承　自然が見せる美しい階調を一枚に◇　中島　秀雄

モノクロ写真はどんな色鮮やかな世界も白と黒で写し出す。その表現力は最新の高画質カラープリントにも決して劣らない。もっとも同じ白でも、雪と雲が同一では質感を表現できない。そこで、私はモノクロ写真を撮るとき、米国の高名な写真家アンセル・アダムス（1902～84年）らが考案した「ゾーンシステム」を参考にしてきた。

ゾーンシステムは、モノクロの微妙な階調を再現するため、アダムスらが41年に開発した写真の露出や現像などを決める手法の一つだ。最も暗い完全な黒から最も明るい純白までを段階にして、撮影する際の指標として使う。

私は95年に「ゾーンシステム研究会」を設立して以来、普及啓発に取り組んできた。研究会では月1回会員が撮った写真を講評し、年2回撮影会も開いてきた。基礎から応用まで身につくように指導する。

湖面と氷、雪の質感を焼き付けようとした（2000年ごろ、米ヨセミテ国立公園）

アダムスの技術書では11段階に分けているが、一般には10段階が多く、私も10段階で撮影している。アダムスは生前に「写真は偶然のできごとではなく、それは概念（コンセプト）なのである」と語っていた。写真表現の本質は被写体そのものではなく、写真家のイメージや概念にあると考え、それを正確に表現するために考案したのがゾーンシステムだった。

彼は自身の写真術を書物に残し、普及させることにも熱心だった。私はアダムスの手法と考えに共鳴し、日本でも広めたいと考えたのだ。

2000年ごろ、アダムスも撮影に訪れた米カリフォルニア州ヨセミテ国立公園に会員と出向き、撮影会を開いた。雄大な渓谷に、水しぶきをあげる滝や河川、美しい風景に胸が躍った。大型カメラと機材計15キロの荷物を抱え、起伏の激しい道を3キロほど歩いて撮影スポットへ向かった。

撮影場所は標高が高く、6月なのに湖は凍り、残雪がある。三脚を立てる前に、この風景で何を強調したいか考える。「残雪はオフホワイトに近いからゾーンはⅧかな。氷はⅥ～Ⅷがよさそうだ」と計算し、頭の中でいったん写真をビジュアライズ（映像化）してみる。後は微調整でイメージ通りの写真が撮れる。

風景よりも屋内の方が難しい。同じカリフォルニア州のボディ州立歴史公園にある小屋の撮影には大変苦労した。

19世紀のゴールドラッシュでは雑貨屋として営業していた歴史的に貴重な建物なので中に入れず、窓ガラス越しの撮影になる。屋内にはあまり光が差し込まず、手前は明るいが、奥は暗い。白い布袋や影など被写体のゾーンを入念に測った。イメージしてシャッターを切ったが、窓ガラスの反射などでうまく撮れない。結局、3度渡米して、ようやく納得できる1枚を撮ることができた。

05年にはアダムスの息子さんに会いに行った。明治から昭和にかけ風景画のジャンルを切り開いた洋画家・版画家の吉田博と、アダムスはヨセミテ国立公園を通じて交流があった。息子、孫の代になっても交流は続いているという。博画伯の孫の隆志さんが紹介してくれ、研究会の会員10人をアダムス家に招待してもらった。

息子のマイケルさんは気さくな人だった。私が「いつかアダムスの作品展覧会を日本で開きたい」と伝えると「是非やってほしい。私が持っている作品を貸してもいいよ」と喜んでくれた。タイミングが合わず実現できていないが、この夢は必ずかなえたい。

コロナ禍のトンネルを抜けた後にはどんな景色が広がっているのだろうか。再び屋外で気兼ねなく撮影できる日を心待ちにしている。（写真家＝なかじま・ひでお）

日本經濟新聞

2021 年 3 月 31 日

大判カメラのピント合わせ　再考

畑文夫

大判カメラのピント合わせ方法を改めて整理してみました。

■はじめに

写真の教科書に出てくるレンズの公式をおさらいします。(図 1)

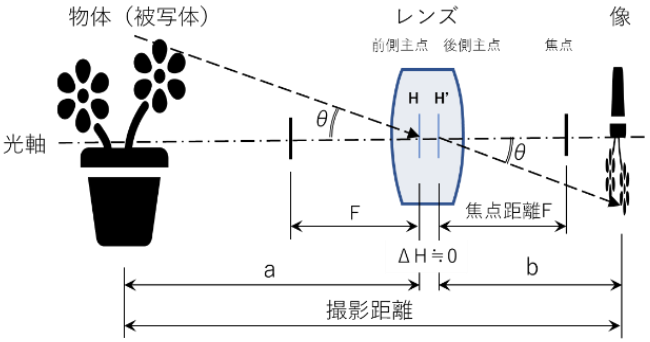


図 1　レンズの略図

レンズ（の前側主点 H）から a の距離（ただし a は焦点距離より大）にある被写体が、レンズ（の後側主点 H'）から b の位置に像を結ぶ場合レンズの公式は：

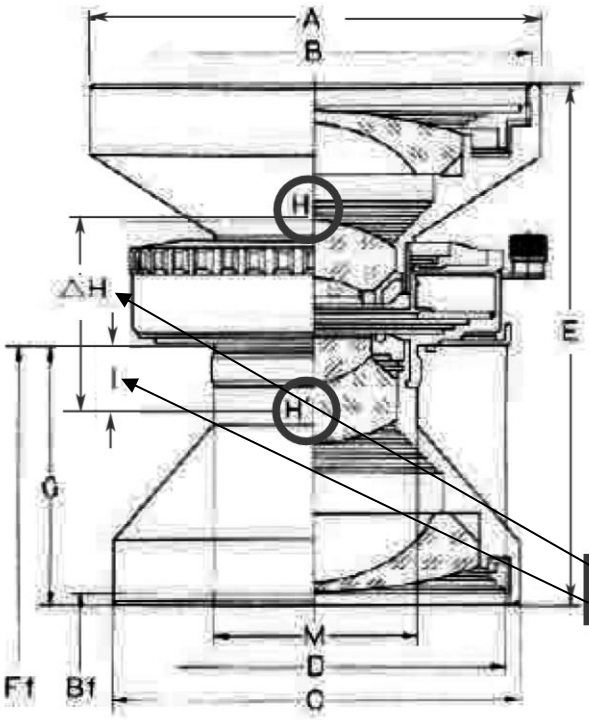
1/a+1/b=1/F　（F は焦点距離）

となります。

被写体から出て H を通る光線は、H' から出て同じ角度（θ）で像に向かいます。

「主点」はあまり一般的ではありませんが一部のカタログには表示されています。図 2 のようにレンズボードの位置に一致するとは限りません。H と H' の間隔は通常撮影では殆ど無視できる値です。

ピントを合わせることは、フィルム面を像の位置に一致させることです。被写体までの距離が異なれば像の位置も異なるので、奥行きのある被写体にピントを合わせるためにはいくつかの工夫が必要です。なお、ここでいう「距離」はすべてレンズの光軸と平行に計った値です。



FujinonSW

焦点距離	65	75	90	105
イメージサークル（1/22）	155φ	181φ	216φ	250φ
最大適用画面寸法（1/22）	4×5		5×7	八
口径比	8			
レンズ構成（群・枚）	4−6			
包括角度（1/22）	100°			
シャッター名称	セイコーNo.0			
スピード目盛	B.1〜1/500			
最小絞り	45	64		
プレスフォーカスレバー	有			
シンクロ接点	X			
焦点距離設計値	64.9	75.0	89.9	105.2
前枠外型寸法（A）	54φ	60φ	70φ	
フィルター取付ネジ（B）	52φ P=0.75	58φ P=0.75	67φ P=0.75	
後枠外型寸法（C）	48φ	54φ	64φ	70φ
シャッター外型寸法（D）	58.5φ			
フランジ取付ネジ（M）	32.5φ P=0.5			
全長（E）	59.4	66.5	78.2	88.5
主点間隔（ΔH）	21.3	24.2	29.0	34.4
第 2 主点とフランジ面の距離(I)	6.7	8.3	10.1	11.7
フランジ面と後枠後端の距離(G)	29.6	33.5	40.0	50.5
フランジ焦点距離（F1）	71.6	83.3	100.0	116.9
バックフォーカス（B1）	44.1	51.3	61.4	71.5
重量（g）	220	290	379	405

図 2　主点の位置（Fujinon カタログより）

■被写界深度を利用する

絞り込めばピントの合う範囲が広くなる（深くなる）ことは周知のとおりですが、大判カメラではふつう被写界深度目盛りがありません。そのため次のようにします。(図 3)

① 最も遠方の被写体にピントを合わせる。（▽印）

② 最も近い被写体にピントを合わせ、蛇腹の繰出し量を計る。（e とする）

③ e の 1/2 だけ蛇腹を縮め、e に応じて絞りこむ。(表 1)

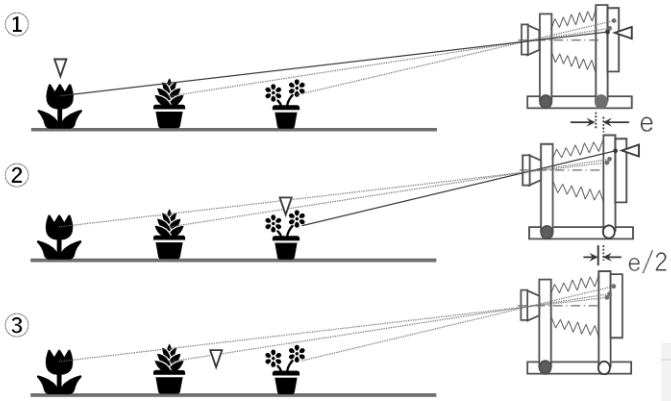


図 3 被写界深度の利用

e(mm)	1.6	2.2	3.2	4.5	6.4	9.0	12.8
4x5	f16	f22	f32	f45	f64	f90	
8x10		f11	f16	f22	f32	f45	f64

表 1 蛇腹の繰出し量と絞り

（許容ボケ直径≒ネガの対角長／3000 の場合）

この表をゾーンノートに挟んでおくと便利です。絞りはフォーマットによって変わりますが、8×10 で撮影してもネガを 4×5 にトリミングする場合は 4×5 の値を用います。

表には焦点距離が含まれませんが、撮影距離が同じなら焦点距離が長いほど繰出し量が大きくなるので、より絞り込む必要があります。

③でピントが合う被写体の位置は①と②の中央より若干レンズに近い場所です。

蛇腹の繰出し目盛りがないフィールドカメラでは適当なメジャーを貼り付けておくとよいでしょう。(図 4)

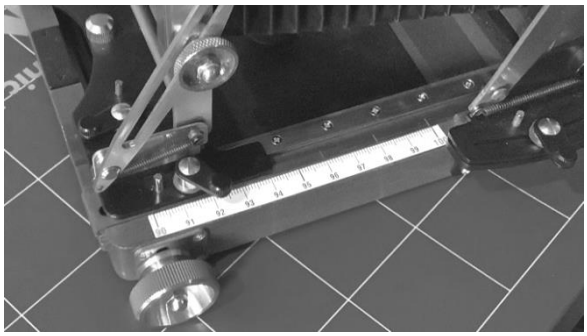


図 1 繰出し目盛り

■アオリを使用する場合

公式によると、レンズに近い被写体はレンズから離れた位置に大きな像を結び、逆に遠い被写体はより近くに小さく結像します。無限遠方の被写体は焦点に像が出来ます。(図 5)

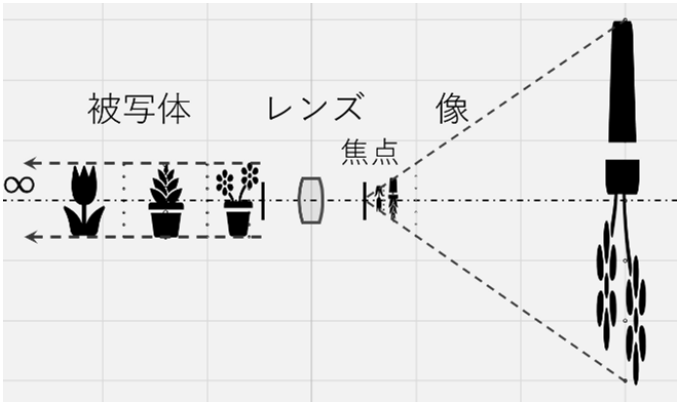


図 5 被写体と像の位置関係

同じ公式から、奥行きのある被写体と像の間には「被写体を含む平面と、レンズの（後側主点）を含む平面、そして像面は一つの線で交わる」というシャインプルーク(Scheimpflug)の法則が得られます。(図 6) これを利用して奥行き方向のピント合わせが出来ます。

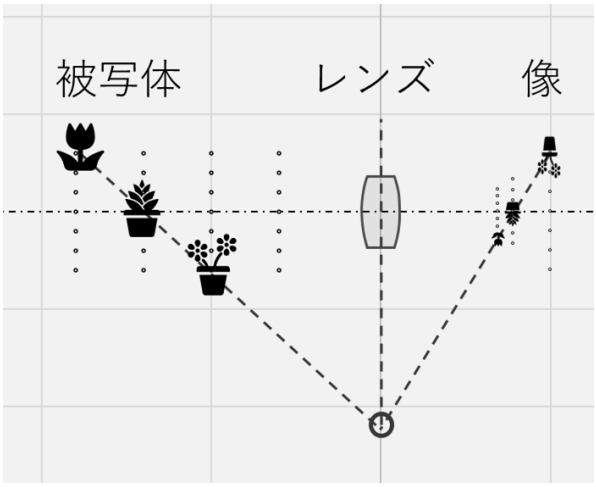


図 6 シャインプルークの法則

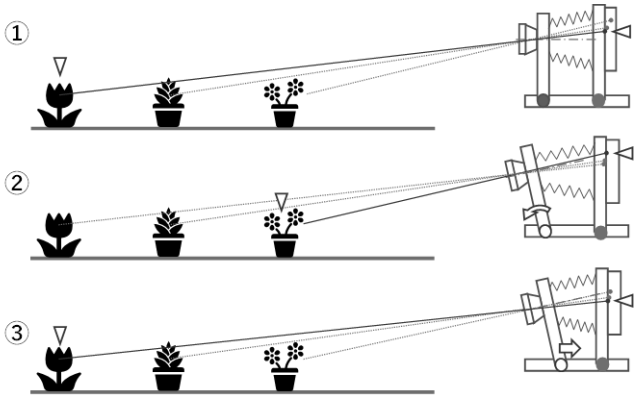


図 7 レンズ側のティルト

これには、レンズ側を傾ける方法（図 7）とフィルム側を傾ける方法（図 8）がありますが、フィールドカメラではティルト回転軸が光軸と交わらない構造が多く、いずれも試行錯誤をする必要があります。

①遠方の被写体（普通は水平回転軸に近い）ピントを合わせ、

②レンズ又はフィルム側を傾けて近くの被写体にピントを合わせる

③再び遠方の被写体のピントを確認し、合わせなおす

② 戻る ・・・ 以下同文

建物のように垂直線を正確に描写したい被写体が含まれる場合は、フィルム側の垂直を水準器で割り出して固定し、レンズ側だけを傾ける必要があります。

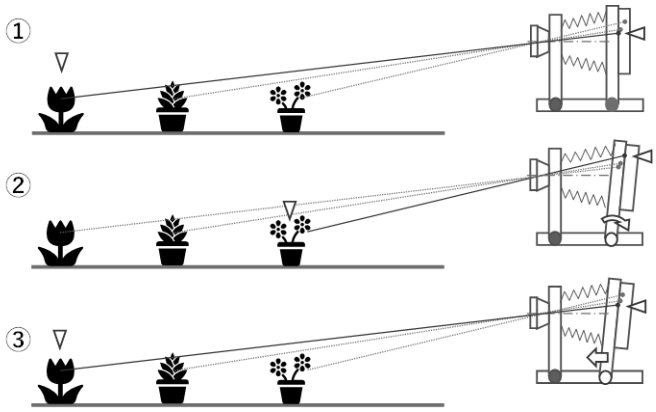


図 8 フィルム側のティルト

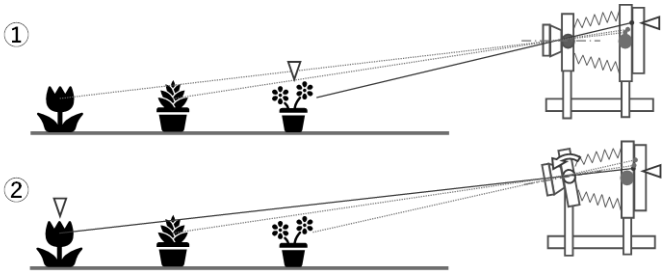


図 9 レンズ中心のティルト

ビューカメラなどレンズ（の後側主点 H’）を中心に回転できる場合は図 9 のように、①先ず近距離にピントを合わせ、②次にレンズをティルトする方がスムーズです。これは H’を中心に回転した場合、像の位置はレンズから遠い方に移動するためです。

■補足　許容ボケについて

被写界深度を決めるためには許容ボケのサイズ（ボケても目立たないサイズ＝業界用語では最小錯乱円）を決める必要があります。通常「8×10サイズにプリントし、明視の距離（約 25 ㎝）で鑑賞してボケがわからない」ことが基準となります。プリント上のボケ許容値は厳し目に見て約 0.1 ㎜なので、フィルム上の許容値ｃはこれを引伸し倍率で割った値となります。

図 3 の蛇腹繰り出し量ｅとｃの関係は次の通りです。（図 10）

f=e/2c　（f は絞り値）

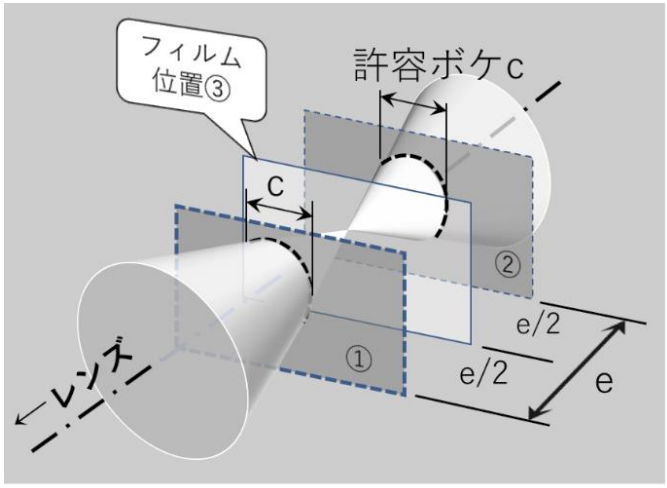
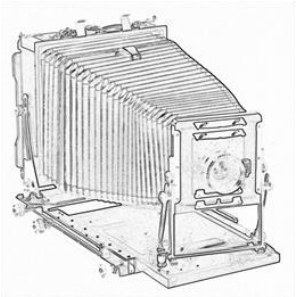


図 10 蛇腹繰出し量ｅと許容ボケｃの関係

（図 3 のピント面拡大　円錐の頂点にフィルムを置く）



8×10 フィルムを密着焼する場合は引伸し倍率が 1 ですから、ネガ上の許容ボケも 0.1 ㎜です。より小さいフォーマットを使う場合やネガをトリミングして引伸ばす場合は、その倍率を掛けた絞り値にします。

ILFORD Delta 100 テスト報告

中島秀雄

■準備

・フィルム： Delta 100(公称感度 ISO100)
・照明： 500w ブルーフラッドランプ２灯
・被写体： 18%グレーカード
・露出計： ペンタックス・スポット露出計
・カメラ： FUJI 6x8 Professional
・レンズ： EBC FUJINON 1:3.5 f=90mm

■撮影データ

・EV 値： 9 →zone Ⅰに設定
・ISO： 30 f8 1/2
“ 50 f11
“ 75 f11 1/2
“ 100 f16
“ 150 f16 1/2
“ 200 f22

各半絞りの変化
（中判カメラの絞り数値に 1/3 絞りはないので半絞りの変化とする。）

■フィルム現像

・タンク パターソン ブローニー1 本用
・前浴： 水 600ml 22℃
・現像液： D-76 1:1 600ml 20℃
・現像時間： 10 分 25 秒間隔に 5 秒撹拌
・停止液： 90%酢酸 1000ml:39ml
・定着液： フジフィックス 10 分
・予備水洗： 5 分
・ハイポ駆除：2 分
・水洗： 10 分
・乾燥： 自然乾燥

ISO	30	50	75 (64)	100	150	200
シャッター	1/30秒	1/30秒	1/30秒	1/30秒	1/30秒	1/30秒
絞り	f 8 1/2	f 11	f 11 1/2	F16	f 16 1/2	f 22
濃度 (ベース・カブリ濃度 0.05)	0.24	0.19	0.15	0.12	0.08	0.06

＊基準となるゾーンⅠの濃度は、フィルムのベース濃度＋カブリ濃度＋0.1 となっている。
ベース濃度+カブリ濃度=0.05 0.05+0.1 =0.15
ISO75（ISO64）が実用感度と決定した。

■ISO 64 に見合う現像時間テスト

前回と同じ条件（グレーカードを均一に照明）に設置し、照明は感度測定より明るい照明とする。（光量が足りなければ白いパネルに切り替える）
スポット露出計で測定し、EV 12 2/3 をゾーンⅧに位置づけると 1/8 秒ｆ 8 の露出値を得た。
照明を調整し、露出値をきっちりした数値にすることが大事だ。

1/8 秒 f8 （Fuji 6x8 プロフェショナルは 9 枚撮り）

Ⅷ	Ⅷ	Ⅷ	Ⅷ	Ⅷ	Ⅷ	Ⅷ	Ⅷ	Ⅷ

ブローニーフィルムすべてにゾーンⅧで撮影する。

現像準備

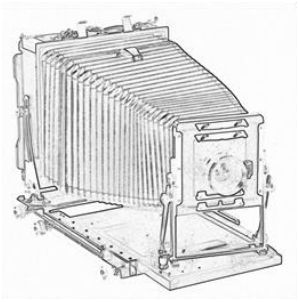
・220 ブローニーフィルム用のリール 2 個、タンク一個
・ゾーンⅧで撮影したフィルム

撮影したフィルムを全暗黒の中で四等分にカットして、リールに２本巻き込みタンクに装填。フィルムが重ならないように注意。もう一つのリールに残り 2 本のフィルムを巻き込み、ダークバ

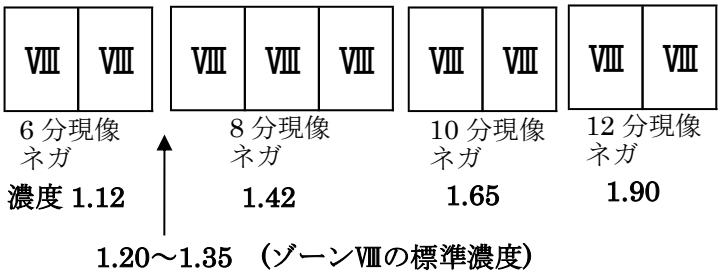
ックのようなものに入れて次の現像を待つ。
前浴、現像、停止、定着、予備水洗、QW、水洗、乾燥

前浴から現像へと進み、現像時間の 6 分手前で暗室のランプを消し全暗室にする。現像タンクのふたを開けてリールから 6 分現像のフィルムを取り出し停止液に入れ、そのまま 8 分まで現像を続ける。その後 8 分のフィルムを取り出し停止液に入れ、すでに停止した 6 分ネガを別のリールに巻き取り定着液にいれ時間まで定着し、8 分ネガも同様に定着する。

結果として 6 分現像ネガと 8 分現像のネガをつくったことになり、要領が分かればそれぞれの工程は工夫して進めればよい。次に、10 分現像と 12 分現像を同じ要領で進め、水洗、自然乾燥する。



1/4 にカットしたネガフィルムを自然乾燥して濃度測定



濃度測定の結果

拡散光式引き伸ばし機のゾーンⅧは濃度 1.20～1.35、集光式引き伸ばし機のゾーンⅧは濃度 1.15～1.25 が基準となっている。私の引き伸ばし機は拡散光式引き伸ばし機であるから、6 分現像ネガと 8 分現像ネガの中間にあると決定し、**標準現像時間は 7 分と決定**した。

テスト結果として**デルタ 100** フィルムの**実用感度は ISO64、感度に見合う標準現像時間は 7 分**とした。今後、実践の中で調整することもある。

ILFORD Delta 100 を使って

中島秀雄

ヨーロッパの写真感材をネットで見ると、ブローニーフィルムの種類の多さに驚く。それだけ需要があるのだろうし、これからも生産を続けていただきたい。

今回の Delta 100 は外箱に HARMAN technology と印字され、期限は 2022/1 となっている。内側の説明書には ISO50/100/200 と書かれ、ILFORD 社の様々な現像液による現像データーが書かれている。

フィルムは銀色の用紙に包まれ、簡単には破れなかった。輸送途中の湿気などの保護として完璧といえた。カメラに装填し撮影・現像までは他のフィルムとなんら変わるところがないが、現像して仕上げたネガを見て抜けのよいフィルムベースに好ましく感じた。

ベース濃度は 0.05 の値で、コダックのプラス X に近い。しかし、実用感度は ISO64 しかなく、建築物や室内の静物など動きのない被写体撮影に向いていると感じた。

作例撮影には、以前から狙っていた並木道に点在する”切り株”を被写体と決めた。成長して巨木になった樫の木が切られ、その痕跡として切り株が現れた。巨木の形状や年輪、切断に使ったチェーンソーの歯形や角度までがそのまま残り、作者不詳のアート作品と思えた。歩道の隅に三脚をセットすると通行人は、カメラをよけて切り株の上を歩いて通り過ぎていく。切り株の形状をきっちり撮るには真上がベストだが、それはできない。三脚を伸ばし脚立を使ってぎりぎりまで俯瞰し、カメラの標準レンズ 90 ミリは歪むことなく収まった。電線、看板、枝などの影が複雑に映り込み、直射光はダメなことは事前のロケで確認していた。切り株周辺の細かなゴミ、切りカス、汚れなどを振り払いシャッターを切った。切り株はゾーンⅥ～Ⅶ、暗部はⅡ～Ⅲ、歩道はゾーンⅣとして、F22, 1/4 秒とした。

標準現像時間の 7 分で現像してコンタクトプリントを Filter 2 で取ったが、コントラストは少し低いように思い、次回の現像時間は 7.5 分を予定したが、支給されたフィルムは尽きてしまったのは残念だ。

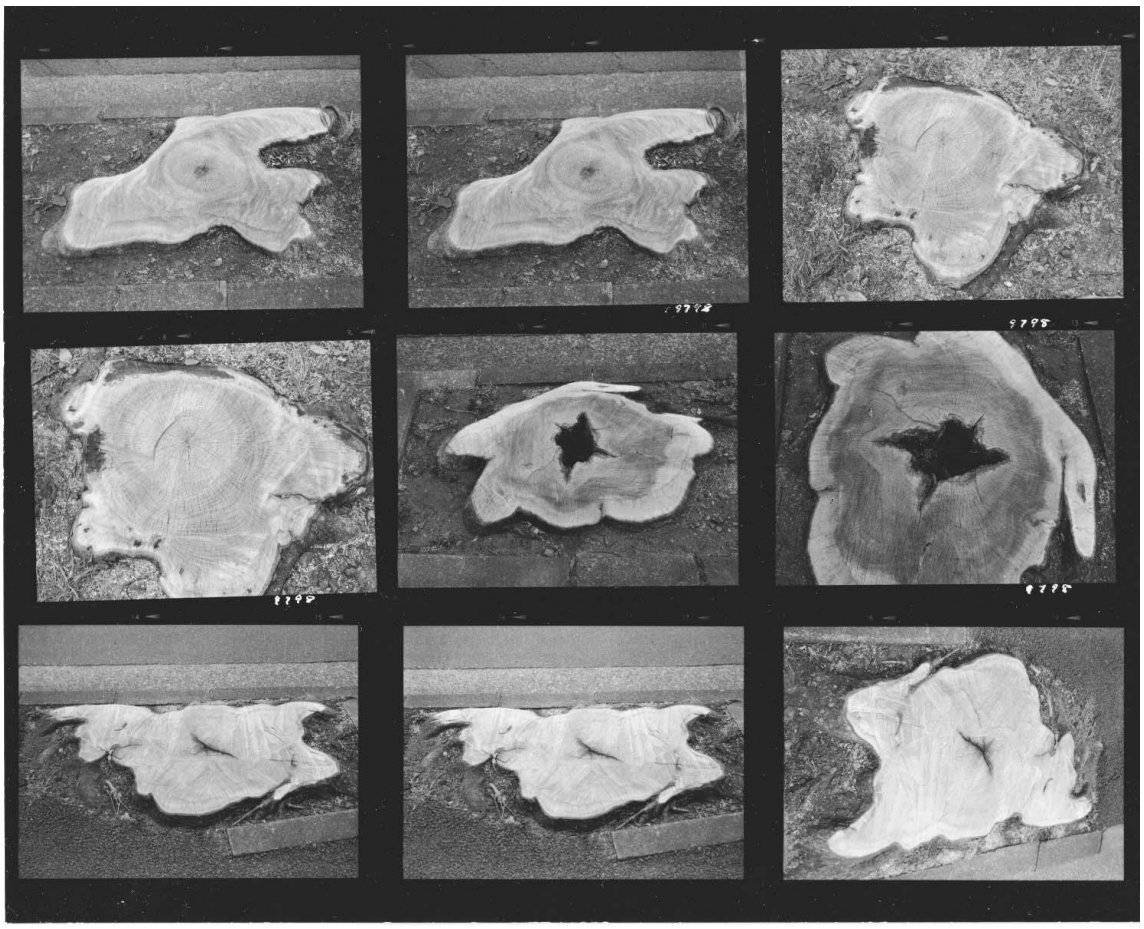
プリントデーターは、ILFORD VC cool tone、filter2.5、Cold Light。現像液は Papitol 1:1。

三本のフィルムによってデーターと作例写真では十分な感想にはならないが、撮影目的と被写体を考えて撮影していく分には何も問題はない。わけの分らないムラや傷もなく、癖のないフィルムで誰にでも奨めることのできるフィルムといえる。

ISO50～200 まで対応できると書かれているので、コントラストのある被写体にもそれなりの結果を見せてくれるかもしれない。強い光の中で巨石や巨岩の美しいディテールが写し取れるかもしれないと感じた。

撮影目的を考え、自身の正しいデーターを取って進めることでこのフィルムの特性を 100 パーセント引き出すことができるだろう。

作例写真



ゾーンシステム研究会定例会日誌

2020 年 7 月 4 日（土）

リモート講評会　（コロナ対策）

・出席者：中島代表、北野、浜野、古谷津、川北、畑

■中島代表連絡事項

●作品を送るときには選択したプリント以外のカットもわかるよう、コンタクトプリントも含めること。（更に良い作品がある可能性もあり）

●日経のアダムスの記事は大変参考になるので、各自の感想も発表してもらうようにしたい。

●暗室ワーク（9 月・アルジャンを予定）ではマスクが必須。

●写真展の準備について、E&M に電話確認する。

■その他情報

●緊急企画展「東京 2020 コロナの春」写真家が切り取る緊急事態宣言下の日本

https://fugensha.jp/events/20200611coronatokyo/

2020 年 7 月 11 日（土）

アカデミー茗台 学習室

・出席者（※印は作品持参）：中島代表、浜野、川北※、長谷川勇※、橘田※、中澤※、葛城※、岡崎（※）、鈴木知※、北野※、金野※、鶴見、大内、石井康※、畑

■写真展

●松本さんの遺作を整理したうえで、11 月の写真展にも展示したい。遺作は会員にも分ける予定。

●3 月以降の例会が出来なかったので、11 月の写真展に向けて臨時例会などを開催したい。

●スケジュール案（会場などは一部未定あり）

・8 月例会 8 日（土）湯島地域活動センター

・8 月臨時例会 8 月 22 日（土）・・・写真展参加者の決定、候補作絞り込み、DM 掲載作品の決定

・9 月例会 12 日（土）シビックセンター

・9 月暗室ワーク 9 月 27 日（日）・・・アルジャンを予定

・9 月 ・・・DM デザイン完

・10 月例会 10 日

・10 月臨時例会 24 日（土）・・・額装作品のチェック、梱包、発送、など

・11 月 写真展 10 日～21 日（8 日搬入）

・12 月例会 12 日（土）

2020 年 8 月 8 日（土）

湯島地域活動センター 会議室

・出席者（※印は作品持参、＋はプリント郵送、＊はネガ持参）：中島代表、北野※、小菅※、長谷川勇※、大内※、岡崎※、鈴木武※、葛城※、鈴木知※、畑※、鶴見＊、中澤、橘田、浜野、石井康、(古谷津＋)、(越後＋)、(藤田＋)

■中島代表連絡事項

●最近の会員作品はブローニーフィルムで撮ったものが多くなっている。より良い結果が得られる大型カメラは、使える人が限られるので出来るだけ大判で撮ってほしい。

■暗室ワーク

●9 月 27 日（日）に、「銀塩写真工房アルジャン」（竜ケ崎）で行う。

●当日希望者（ネガサイズ）

鈴木知（6×6、4×5）、石井康（4×5）、葛城（4×5）、浜野（4×5）

●追加の参加希望は直接中島先生へ申し込む。（ネガサイズと希望の時間帯（午前、午後）を明記）

■写真展

●概ね 25 点以上展示できる。

●ＤＭは大判サイズ、背景は昨年より少し明るいグレーが良い。掲載作品は 4 点（中島代表 1＋会員 3）とし、イメージを大きくする。

●ＤＭ掲載作品は 8 月 22 日臨時例会で決定する。（出稿は 8 月末）

●ＤＭへの参加者の氏名記載は見送る。

●出展候補作、および参加意思表示は 8 月 22 日臨時例会で決める。

■情報

●神田に“サイバーグラフィックス”が開いた「The Base Point」では、会員登録するとイルフォード、オリエンタル製品が大幅に安くなる。（登録料 500 円、プライスリストは非公開）

貸し暗室とギャラリーがある。

2020 年 9 月 12 日（土）

文京区シビックセンター 会議室

・出席者（※印は作品持参）：中島代表、鶴見※、長谷川勇、金子※、小菅※、鈴木武※、鈴木知※、臼井、中澤、大内、橘田、北野、金野、畑

■写真展

●写真展への出展は 1 人 1 点だが、数人には 2 点をお願いすることがある。該当する方には別途連絡。

●故 松本ひさ子さんの作品も展示する。

●10 月例会には出展プリントの確認を行う。

当日欠席する方は事前に中島代表宛郵送すること。

●写真展 DM は 9 月 16 日頃印刷完了予定。

■暗室ワーク

●日時：9 月 27 日（日）

午前 9:00～13:00,　午後 14:00～18:00

●会場：銀塩写真工房アルジャン

（研究会ホームページのパンフレット参照）

●交通：希望者は竜ケ崎駅から車で送迎あり

●費用：指導料 3000 円

●暗室レンタル料 4000 円(4 時間)＋薬品代 1200 円＋廃液処理 600 円（研究会会員は左記の 20%引き）

＊セレニウムトーニング、水洗、乾燥、フラットニングなどは別料金

●持参するもの

ネガ、コンタクトプリントまたは既にプリントしたもの、バライタ印画紙（原則として 11×14）

●６名以上の希望があったので、追加の実施方法を検討中

■その他

●故 松本ひさ子さんのプリントを会員に買い取っていただきたいので、後日機会を設ける予定。

2020 年 10 月 10 日（土）

文京区シビックセンター 会議室

・出席者：中島代表、臼井、金子、長谷川勇、浜野、小菅、畑、葛城、中澤、石井康、石井政、北野、橘田、鈴木武、鈴木知、大内、鶴見

・見学：佐々木、久保

■写真展

●10 月 25 日の臨時例会で額装を確認する。その後 E&M に直接持ち込みたい。

●11 月 8 日の展示作業に直接持ち込む場合の時刻なども確認する。

●会場には 4 月の日経新聞（アダムスの特集）も展示する。

（以上は中島代表が竹内氏に確認する）

●本日の例会において、写真展用プリントの確認と DM 配布を行った。

●展示は 1 人 1 点だが、中島代表、金子、橘田の 3 名は 2 点ずつとしたい。（合計約 25 点展示）

●岡崎氏が入院したとの連絡あり、写真展参加の可否は確認中。

●宮内、越後両氏の参加は未確定。

作品の写真はこちら。（一部未掲載あり）

https://photos.app.goo.gl/ossE246hhKGZ79UZ8

●写真展の当番は 25 日に決める予定。

●写真展参加費 1 万円を納入願う。

■本日の例会見学者

・佐々木邦夫氏（岩手在住）

・久保重成氏（久保氏からは入会希望を受領）

2020 年 12 月 12 日（土）

リモート例会（コロナ対策）

■写真展

●本日、額装の最終確認、梱包、発送、当番決定等を行った。

●直接ギャラリーに持ち込む場合は、11 月 8 日（日）11 時ごろに会場へ持ち込むこと。

2020 年 12 月 12 日（土）

リモート例会 （コロナ対策）

■中島代表連絡事項

●来年のテーマは「静物」「身近な自然」とする。

●写真展の会場応募用に、8×10 プリントを 1 月例会（当日）までに中島代表宛郵送すること。（テーマと無関係も可・裏面に氏名とタイトルを記入）

■お知らせ

●写真展の費用精算は、2021 年会費と合算したうえで差額を納めていただく。

今年の写真展に参加した方には差額を後日連絡。それまでは納入（振込）を控えていただく。

●写真展の経費を立て替えてまだ連絡のない方は、レシートを写真に撮って会計（臼井さん）にメールすること。

●1 月例会については決まり次第連絡。

2021 年 1 月 9 日（土）

リモート例会（コロナ対策）

■写真展

●写真展会場を申し込むための作品が不足しているので、中島代表宛に至急送るようにしてください。（8×10 プリント 裏面に氏名やタイトルを鉛筆記入）

●2021 年の写真展はシリウスに申し込む予定。

■活動関連協力者募集の件

●2021 年の活動に対する皆様の提案や協力を募集する。積極的に発言して欲しい。

（従来通りの例会や撮影会、暗室ワークの実施が難しいことが予想される。）

●リモートワークショップのための動画制作、テキスト改訂などに協力できる方を募集する。

●会報編集に協力できる方を募集する。

■プロジェクターの件

●中島代表がワークショップや例会などで使用するプロジェクターを研究会で購入したいという希望が出ている。（総会議決項目）

■新規入会者

●2021 年 1 月入会（準会員）中井陽一郎氏（京都）

■その他

●岡崎氏は依然として入院中。ご家族も面会できないため詳しいことは不明。（12/26 電話確認）

2021 年 2 月 13 日（土）

リモート総会（コロナ対策）

＊中島代表が技術的な問題でリモート参加できなかったため、総会としては成立できなかった。

■宿題事項

以下宿題事項を中島代表と役員で再度検討する。

●プロジェクターの購入は当面見送ってほしい。

・プロジェクターではプリントの重要な質感まで再現することはできない。

・研究会以外の活動で使うものを、会費で購入するのはいかがなものか。

・リモート例会では使用する機会がない。

●今年の会費の減額について

・リモート例会では、我々にとって最も大切なプリントの質までを指導することが困難。

●現在の「会員」「準会員」の区別を無くしてはどうか

・活動を広げるためにも、興味を持つ人には広く入会してもらい、入会してからワークショップに参加してもらう方が良い。

●研究会主催のワークショップを立ち上げたい

・シャテーニュの意向に左右されない、初心者向けのワークショップを充実してほしい。

■今年度の計画について（了解事項）

●写真展会場応募のためのプリントを中島代表あてに送付する（会員）

●初心者向けゾーンシステムテキストをつくる。・・・浜野氏、久保氏（初心者代表として参加）

●フィルムと印画紙のテスト

テスト方法の検討、ネガ濃度測定、参加者募集など、取りまとめ役を金子氏が行う。

■その他情報

●初心者向け（リモート対応）動画教材を試作した。（大判カメラの被写界深度利用方法）（畑）

●イギリス製の大判カメラ紹介（久保）

https://intrepidcamera.co.uk/

【 2021 年度、研究会活動・案 】（抜粋）

＊以下は、2 月 13 日総会当日の中で中島代表から説明予定だった 2021 年度活動案の抜粋。

■写真展会場

シリウス（11 月開催）を予定

■今年のテーマ

●テーマ 1：都市の自然

現在、外出制限の中では撮影に難しさもあり、解除後に期待したい。都市はコンクリートやアスファルト、混み合う車や鉄道ばかりではなく、水辺や小川、植栽、石積み、公園緑地など都市の自然風景として印象深い作品を求める。

●テーマ 2：静物写真

住居空間の中で撮影素材を見つけ”静物写真”として捉える。

自粛もあり、しばらく外に出たくない人もいる。ならば生活空間の中に被写体を探し撮影素材としてそれにカメラを向ける。

■フィルムのテスト

インターネットで市販フィルムを見ると、特にブローニーフィルムの種類が増えていて、中判カメラからフィルム使って撮影する写真家たちが増えていると思いたくなる。研究会は一昨年、4x5 インチフィルムのテストを試み、その結果をまとめて公表してきた。今回はブローニーフィルムに絞ってそれぞれの特性を探ってみるのがいいと思っている。

●フィルムの種類：キャットラブズ、アリスタ、フォーマ、イルフォード、ローライ、ベルゲールなどが候補となる。

●各フィルムの感度、標準現像時間、実写によるサンプル写真、テスト記録、講評

●各自慣れた現像液、印画紙、引き伸ばし機を使用

■印画紙のテスト

印画紙の生産が心配される中、それでもネットを見ると欧州メーカーの生産した数種類の印画紙を見ることができる。

一枚のネガを使って数種類の印画紙にプリントにして、その特性を比較し検討する。個人の使い慣れた現像液、引き伸ばし機によって、黒の美しさ、深さ、そしてハーフトーンからハイライトの輝きと、コントラストや感度の違いをみる。

●印画紙の種類：アドックス、アリスタ、ベルゲール、フォーマ、イルフォード・ウォームトーン他が候補になるだろう。

■新テキストの編集

やさしく編集することでスタートした研究会の現状テキストは、結果として難しい、分からないという声もある。

若者にも、ベテランの写真愛好家にもすんなり取り込める編集になるといいと思っている。

今回のテキスト編集は、はっきり初級者向けとするのがいいだろう。手持ちの機材とブローニーフィルムなら負担も少なく、取り組みやすくなる。

できるならサンプル写真を掲載すれば理解も深まるだろう。

■動画制作

ゾーンシステムの技法に初めてふれる若い人たちやベテランの写真家にさえ手順や意味をテキストだけでは十分に伝えきれない。

動画は連続する時間の中で見ることができ、繰り返し見ることで多くの情報を読み取ることができるだろう。

米国には VTR や CD による How to ものが売られ、最近は You tube に撮影、暗室作業などの動画が多く見られる。手持ちの道具や指導者の手作り装置に驚くことも多く、すぐに取り入れたい技法もある。

どのようなテーマからスタートするのがいいか検討したい。

2021 年 3 月 13 日（土）
文京区シビックセンター 会議室
・出席者：中島代表、大内、葛城、橘田、久保、小菅、鈴木(知)、鈴木(武) 、鶴見、中澤、長谷川(勇)、浜野

2 月のリモート総会が不成立だったため、本日宿題事項をあらためて説明し検討した。

●前年度の会計報告および今年度の予算案
大内さんに議長となってもらい、出席者の賛同を得て可決された。

●シリウスへ提出するサンプルプリントの件
現在 30 枚程度集まっている。
（例会でさらに 7～8 枚集まった）

●今年のテーマについて（中島代表より）
・静物写真・都市の自然についての作例について
・フイルムテストの件
会員にフイルムを配布して各自でテストすることを検討していたが、各人の環境でばらつきが出るのでアルジャンを 1 日借りてまとめてテストする方が良いと思えてきた。まとめ役の金子さんとも相談する。
・動画撮影の件
YOU TUBE などにアメリカの動画がたくさんあるが、日本でつくった動画はほとんどない。研究会の存在をアピールするためにも動画制作の意義がある。

●初級者ワークショップについて(中島代表より)
シャテーニュあるいはアルジャンを借りて初級者対象のワークショップ開催を検討。それにあわせて平易なテキストつくりたい。

●会費の減額の件について
(出席者全員から意見を述べてもらった)
①現状の会費はそれほど高くはない。むしろ他の倶楽部に比較すると安いのでは?
②越金が約 70 万円程度あるが、いざという時のためにはこれくらいある方が良い。
③1 月の段階では非常に悲観的になっていて、今後研究会の活動は不可能ではないかとも思っていたが、例会が行える見通しが出てくれば 15,000 円の会費を下げる必要はないと思う。
④例会がないから研究会の活動がないわけではなく、中島代表の本日の話を伺い、見えない所で活動が継続していることが理解できたので、現状通りでよい。
⑤とりあえず 15,000 円を徴収し、なんらかの大きな問題が生じ予算が消化できなかった場合は、年度末お返しすることも検討してはどうか。
⑥収支報告がきちんとなされていて透明性が確保できていれば問題はない。
⑦学校などの場合は授業が行われなかった割合に応じて学費を返金することもある。あるいは補講という形で授業を補う場合もある。研究会については通常の例会に変わるものを考えていただくのがよい。
⑧中島代表の指導料は長年据置きとなっているが、そのことについても検討した方がよいのでは。
以上が主な意見。
＊発議者の中澤さんが今のままで良いとのことなので、1 年後の総会できちんと収支報告をおこなうという前提で「減額はしない」という結論。

●プロジェクターの購入について
当面は見送りということになった。

●展覧会の地方での開催について
東京での展覧会のあとに仙台・新潟・京都あたりで展覧会が開催できないか、という話題が出た。
仙台・新潟については適当な会場があるかどうかは不明。京都は「宿泊費を会の予算で補助することで実現も可能。プロジェクター購入費用をそちらにまわしてはどうか」という意見もあった。

Information

【お詫び】

前回の会報（No.70）において、以下誤りがありました。大変申し訳ありませんでした。

● 8 ページ左段 3 行目

（誤）3 月 22 日

（正）3 月 27 日

● 9 ページ右下

（誤）研究会ヨセミテツアーにて

（正）アンセル・アダムス暗室見学ツアーにて

● 12 ページ左段 下から 2 行目

（誤）1927 年 12 月

（正）1979 年 12 月

［表紙の作品］

・作者：中澤悟

・タイトル：木霊（こだま）

・フィルム：ACROS

・フォーマット：6×6

・レンズ：80 mm

・絞り：f16

・シャッター：1/30 秒

【原稿募集】

会員の皆様からの原稿をお待ちしています。

［以下原稿投稿に関するお願い項目です。すみませんがよろしくお願いします。］

１．写真原稿は、紛失事故防止のためできるだけネガやポジは避け、プリント又は JPEG データでお願いします。

２．手書き文章はスキャナーでパソコンへ入力できないので、原則として受け付けません。以下いずれかの方法にて投稿願います。

・ワープロやパソコンでプリントアウトしたもの。

（スキャナーでパソコンへ入力します。）

・パソコンの電子メール

・ウィンドウズの Word2000-2010

・text ファイル

（ちなみにこの会報は、ウィンドウズの Word2010 で作成しています。）

ただし、どうしても手書き文章しか投稿できない事情がある場合は、事前に御連絡をいただくようお願いします。

３．イラストは手書きでも結構です。スキャナーで取り込みます。

［編集部］　荒井崇